

## ハーレムを作るインパラ

アニマルフォトグラファー  
トラベルライター

平 岩 雅 代

インパラはアフリカの草原でよく見かける羚羊です。

外見はシカのようにですが、実はアフリカにはシカはいません。インパラをはじめ、ガゼル、ヌー、ウォーターバックなど、すべてウシの仲間です、羚羊に分類されます。

ではシカとウシとの違いは、どこにあるのでしょうか。

いちばんわかりやすいのは、シカは毎年ツノが自然に落ちて生えかわります。それに対して、ウシは一度生えたツノは、折れたり欠けたりしても、一生そのまま、新しく生えてくることはありません。

見通しの良い草原(サバンナ)で、群れをつくって暮らしているインパラですが、大きな特徴があります。それは、オス一頭に対して複数のメスと子が集まり、“ハーレム”という一夫多妻の群れを形成することです。インパラはメスにはツノがなく、オスだけに立派な堅琴のような、大きく左右に広がってカーブしたツノが生えます。

まるで王冠をかぶったように誇らし気な



写真1 周囲を警戒するハーレムの王とメスたち

ハーレムの王が、妻子を従えて胸を張る姿には、威厳すら感じられます。

では自分の群れを持たないオスはどうか、といいますと、単独で暮らすか、オスばかりで集まって暮らします。そして「いつか自分のハーレムを……」と、チャンスを狙っているのです。ハーレムで生まれて、成長した子どもの場合も、オスは父親であるハーレムの王から、追い出されてしまいます。たとえ我が子であろうとも、群れの平和を乱す恐れのある危険分子は、徹底的に排除される、それが野生の世界の厳しさなのです。



写真2 ハーレムの王になろうとチャンスを狙うオス

ところでハーレムの王の生活ですが、外から見ているほど気楽なものではない様子です。

のんびりと草を食んだり、休んだりしているメスや子どもたちのことを守るため、絶えず周囲に気を配っています。ハーレムの王に戦いを挑んでくる若い挑戦者は、何とかメスを我がものにしようと、必死になりますし、ライオン、ヒョウ、ハイエナなどの外敵に対しても、油断を怠ってはいけません。

外敵以外にも、ハーレムの中のメスが、勝手な行動を始めることもあります。王の指示を聞かず、群れから離れようとするメスがいたら、王は追いかけ、群れの中に連れ戻そうとします。その時に、王はのどの奥からふり絞るような声で鳴きますが、あのほっそりした優雅な姿とは似ても似つかぬ悪声……。

インパラに限らず、羚羊類にとって最大

の武器は俊足ですが、インパラはジャンプする能力が、ひときわ優れています。大きく弧を描くような、ひと跳ね 4~5メートルのジャンプは、見ていて思わず「ホーッ」と、ため息が出るほど……。

ある程度の距離さえ保っていれば、インパラは外敵から逃げきれることが多いのです。

ケニアのサンプルで出会ったインパラのハーレムはひときわ大きく、立派なツノを持つオスのリーダー(王)に統率されていました。それまで下を向いて草を食べていたリーダーが、突然頭を上げ、遠い一点を見つめると、メスや子どもたちも一斉に草を食べるのをやめ、緊張したムードが漂い始めました。

肉眼では何が起きたのか、確認することができませんでしたが、明らかにリーダーは何かを察知した様子です。

しばらく沈黙と静寂が周囲に支配していましたが、やがて危険は過ぎ去ったと判断したのか、リーダーは再び何もなかったかのように、静かに草を食べ始めました。

一見平和に見えるアフリカのサバンナでは、常に生と死とが隣り合わせています。

ほんのちょっとした油断が、運命を大きく変えてしまう、ということを、私は用心深いインパラのハーレムのリーダーの行動から、改めて教えられました。

〈インパラひとくちメモ〉

▶東アフリカ各国(ケニア、タンザニア、ウガンダなど)で話されている、公用語のスワヒリ語で、インパラは「スワラ・パラ」と呼ばれている。余談ながら

“スワラ”は“羚羊”の意味。

▶野生のインパラの妊娠期間は、およそ6~7か月。オスは誕生後3か月頃から、ツノが生え始める。寿命は、オス、メスともに約12年。